はじめる！家庭菜園

㊲ サトイモを育てよう

発芽には15度以上必要

サトイモはインド東部からインドシナ半島が原産で，現地ではタロイモと呼ばれます。日本には稲作よりも前，縄文時代に伝わったとされます。親イモを囲むように子・孫イモが育つため，豊作や子孫繁栄の象徴とされてきました。

①畑の準備

土をよく耕し，湿度を保つために，はじめは平うねにして，うね幅が８０～１００㌢になるように１５㌢の幅と深さで溝を切り，１平方㍍あたり堆肥３㌔，化成肥料（成分８・８・８）１９０㌘を施してうねを作ります。

②植え付け

発芽は１５度以上の温度が必要です。４月中旬～５月に植付けます。植え付けは，元肥を施すときと同時でよく，株間を４５～５０㌢，種イモは重さが４０～６０㌘のものを芽を上に向けて深さ８～１０㌢に植えます。植え付けが浅く，土寄せが少ないと子イモが多く発生し肥大が悪く，孫イモから芽が出ます。

③芽かき

サトイモは，種イモの上に親イモができ，親イモのまわりに同心円状に子イモ，孫イモができる性質があります。植え付けてから約１カ月後の葉が２，３枚のときに２本以上の芽が出てきたら，元気のよい芽を１本残して他をかき取ります。芽かきをしないと親イモが複数出現し充実した子イモができません。

④追肥と土寄せ

発芽後（５月下旬頃），１平方㍍あたり追肥用化成肥料５０㌘株間に施し，除草と中耕をかねて土寄せを行い，さらに６月中旬～下旬に２回目の追肥と土寄せをします。土の厚さは種イモの上２０㌢にします。土寄せが厚すぎると子イモの数が少なくなり，形が細長く肥大が悪くなります。夏の乾燥防止のため敷ワラを十分にします。梅雨明けまでに葉を茂らせ根元が暗くなるくらいにするのがコツです。

⑤病害虫防除

病気は，生育後半に汚斑病の発生が見られます。害虫では，ハスモンヨトウやオオスカシバなどの葉を食害する害虫や，根の部分に発生するセンチュウ類がいます。葉を食害する虫は，見つけ次第捕殺します。センチュウ類には連作をしないことが得策です。

⑥収穫

１１月上旬の霜が降りる直前に収穫しますが，十分な防寒対策を行うと，ほ場での貯蔵が可能です。掘り取りは，晴天の日にイモを傷つけないよう収穫します。

（鹿児島市都市農業センター）

令和２年４月９日（木）／南日本新聞